



Amir Tsarfati 氏 [平和と戦争×4]

英語版オリジナル「PEACE&WAR×4」2018/9/30 公開

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org>

皆さん、シャバット・シャローム！

今朝のメッセージのタイトルは、「戦争と平和×4」。うしろに「×4」が見えていると良いのですが。

基本的に皆さんに理解していただきたいのは、神が世界を想像された時、創世記1章を見れば分かるように、恐らくそれは、何よりも素晴らしいものだったでしょう。神はそれを作られた時——神が「良し」と言われるなら、それは本当に良いものですよ？——ですから、神は世界を創られ、それは「良かった」のです。また、神が6日に創られた、初めの人アダムでさえ、「良かった」のです。すごいですね！

それから、創世記2章に行くと、これが素晴らしい。スペアリブが、プライムリブになるのです(笑)。二人で、これが素晴らしい。そこで、エデンの園での生活について、ひとことで言うなら、——ところで、これは、この地上ですよ？——あれは、どこか別の場所だと思っている人たちがいますが、これは、神が作られた地球での出来事で、エデンの園はこの地球上にあったのです。そしてまた、後に神が戦われるのも、この地球上です。ここに、彼らは生きていたのです。そこで、エデンの園での生活を、ひとことで形容するなら、「平和」でしょう。平和以外、他に何の知識もありませんでした。

なぜでしょう？

それは、主が、彼らとともにそこにおられたからです。

主は、彼らと園を歩かれたのです。

彼らは、神を求める必要もなく、神を探す必要もなく、どこかの場所で神を礼拝する必要もありませんでした。エデンの園に、神殿はありませんでした。エデンの園では、動物をささげる必要はありませんでした。

エデンの園では、一滴たりとも血を流す必要がなかったのです。2章では、誰によっても、一匹たりとも動物が殺されていません。

考えてみてください。

ライオンやシカが、肩と肩を並べて、皆いっしょに歩いているのです！

そこには、敵意など一切なくて、平和がありました。

しかも、もっとも純粋な本髄です。

それが、神が世をお創りになった時に、意図されたものです。



Figure 1

ルーカス・クラナッハ (父) 画「楽園」

そしてもちろん、創世記3章が来るわけですが、私が驚愕した事実は、創世記2章の最後から、はるか黙示録21章まで平和がないのです。創世記2章の終わり3章から、黙示録21章まで、全体を通して語られているのは、神が意図された平和のない世界です。いかにしてサタンが、反抗の種を人々の心に植えたか、その様子を見ると、とても心が痛みます。彼は、彼らに欺きをいうことによって、その種を植えました。

「その木の実を食べても、あなたは決して死にません。」(3:4 参照)

しかし神は、その前の章で言うておられます。

「それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」(2:17 参照)

それなのに、サタンは彼らに言いました。

「ほら、これを食べれば、あなたがたも神みたいになるのだ。」(3:5 参照)

なんという欺きでしょう！

考えてみてください。

この欺きが、まさにここで、人類に注入されたのです。

同様に、創世記 6 章 5～6 節にも見られます。恐らくここは、聖書の中でも最も悲しい節でしょう。

5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、“いつも” 悪いこと“だけ” に傾くのをご覧になった。

6 それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。

(創世記 6:5～6)

長くはかかりませんでした。たったの 3 章で、主はすでに悔やんでおられる。なぜかと言えば、サタンがしたことを見てください。反抗、欺きが、世に入り込んだのです。エレミヤ書 4 章 22 節にはこうあります。

22 実に、わたしの民は愚か者で、わたしを知らない。

彼らは、ばかな子らで、彼らは悟りが無い。

彼らは悪事を働くのに賢くて、善を行うことを知らない。

(エレミヤ書 4:22)

我々の変わり果てた姿を、見てください。ミニオンです。

サタンは、我々が「善」を「悪」、「悪」を「善」だと考えるようにしました。

それは私たちが、悪事を行うのが善で、良い行いをするのが悪だと考えるからです。

神が、世に与えようとされた「平和」を思い出してください。

ところが、欺きの一つは

「あなたがたにも、平和は得られるよ。」

エレミヤ書 6 章には、こうあります。

14 彼らは、わたしの民の傷を手軽にいやし、

平安がないのに、『平安だ、平安だ』と言っている。

(エレミヤ書 6:14)

私たちは、優しく自分を殺しています。そんな歌がありましたね (笑)

しかしこれが、私たちのしていること。私たちは、こんな風に考えます。

「我々は、何でもできるのだ！」

「我々は、世に平安をもたらすことができる！」

国連！ (United Nations)

私たちはこれを、「United Nothing/無連合」もしくは、「Un-Necessary/無駄」と呼びますが (笑)、彼らは、世界平和が全てです。

そこで、これを見てください。

人間の試みは罪、腐敗に満ちていて、平和をもたらそうとする人間の試みは、もちろん失敗しています。そして、自分たちの行いで自分を贖おうとする人間の試みは、明らかに失敗しています。それから、自分の行いによって義を取り戻す、または達成しようとする人間の試みは、失敗しています。そこへイエスが世に来られ、全てを変



Figure 2 フーゴー・ファン・デル・クース画「人間の墮落」

えられました。マタイの福音書 11 章で、主は言われます。

- 28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。
- 29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。
- 30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。

(マタイ 11:28~30)



くびき

神は、2000 年前に解決策を与えてくださいました。それも、ただ罪に対してだけでなく、平和に対しても。平和の欠如に対して、と言った方が良くも知れません。

「平和が欲しいなら、ここにある。他の場所を探すな。

わたしがここにいる。わたしが道であり、わたしが真理であり、わたしがいのちである。

わたしにあって、あなたがたは、平安を見つけられるのだ。

だから、あなたがたが抱えているものは、何でも全て持って来なさい。

わたしにとって、重すぎるもの、厳しすぎて負えないものなど何もない。

イザヤ書 53 章は、『彼がすべてを負った』と告げているのだから。」



そして、2000 年前、ついに、古い人が新しくなる機会が与えられたのです。

神は、人に平和があることを望んでおられます。しかし、平和の道は一つしかありません。

- 17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

(第二コリント 5:17)

もし皆さんが、大変な世の中に住んでおられるなら、テモテへの手紙第一は、こう告げています。

- 1 そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。
- 2 それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。
- 3 そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。

(第一テモテ 2:1~3)

神は、私たちが平穏な生活を送ることを望んでおられます。この恐ろしい世においても、です。

それが、神の望んでおられることです。

神が、戦いの人となられるのは、人間が戦いを挑む時だけです。

しかしもし、あなたが平和を求めらるなら、また、あなたにその平安が必要なら、あなたにはそれがあるのです。

第二テサロニケ 3 章 16 節。

16 どうか、平和の主ご自身が、どんな場合にも、いつも、あなたがたに平和を与えてくださいますように。どうか、主があなたがたすべてと、ともにおられますように。

(第二テサロニケ 3:16)

「いつも」と言ってください。

(会衆)「いつも」

「どこでも」と言ってください。

(会衆)「どこでも」

ご覧の通り、これは、地理的な位置や何かに制限される一時的な平和ではありません。

イエスにあって、いつも、どこでも。主がともにいてくださるのです。

さて、これは信者に限ります。しかし、預言者たちを通して、神は、これから起こる事の時系列を、私たちに与えてくださいました。神は、世とそれから私たちに対する主のご計画を、預言者たちを通して惜しみなく、見事に伝えておられます。そのため、イザヤ書 46 章 9~10 節が告げています。

9 遠い大昔の事を思い出せ。

わたしが神である。ほかにはいない。

わたしのような神はいない。

10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、

まだなされていない事を昔から告げ、

『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる』と言う。

(イザヤ書 46:9~10)

神は言われます。

「わたしの子どもたちには、わたしの計画を知っておいてほしい。わたしはそれを隠さず、彼らに告げる。」

事実、アモス書 3 章 7 節にはこうあります。

7 まことに、神である主は、そのはかりごとを、ご自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、何事もなさない。

(アモス書 3:7)

では、預言者たちとは誰ですか？

こんにち、多くの人々が“預言者”だと自称します。ある人たちは「預言学校」を運営しています。

私は預言者ではありません。皆さん、ご存知ですね？

Non-profit organization 非営利団体（非預言者）の人間です（笑）。

ただ、一つ、私に言えるのは、聖書は第二ペテロ 1 章 20~21 章で、こう告げています。

20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を

施してはならない、ということです。

21 **なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。**

(第二ペテロ 1:20~21)

そして、これら 2700 年、2800 年、2900 年前の預言者たちは、見事な真理を伝えています。それは、イエスご自身すらも無視せず、成就されたのです。

イエスは決して、絶対に、一度も、新約聖書の預言を成就されませんでした。

イエスが成就されたのは、旧約だけです。

ということで、4 回の平和と戦争。

人は 4 度、「平和」だと思いますが、訪れるのは「戦争」です。



まず、一番目は現在。

私たちはこの世に生きて、イスラエルとアラブ界に訪れようとしている、この「平和」について、皆が語っています。

現在準備されている「究極の協定」。



半分の人々は、それを見る前からすでに「NO」と言い、

別の半分の人たちは「とりあえず見てみよう」と言い、それから「NO」と言う。

他の人たちは「試してみたらどうだ?」と言います。

これらの人々、これらの指導者たちの、世に平和をもたらそうとする企ては、容赦ありません。そしてこの究極の協定は、長く続くことはありません。

彼らの真摯な働きには感謝しますが、第一テサロニケは、こう告げています。

3 **人々が「平和だ。安全だ」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。**

(第一テサロニケ 5:3)

つまり、この世の指導者たちが提供する平和に、私たちが希望をおくと、私たちは落胆することになります。

私は、心の底から、現在のアメリカの政権は、これまでの歴史上、見たことのないほど、圧倒的に親イスラエルで、命を尊厳し、家族を尊厳する政権だと信じています。

(会場拍手)



ただ、私に言えるのは、こんにちのイスラエルは、安全、安心、繁栄し、世界大国で知られています。

私たちは、以前のような、詩篇 83 篇が描写している、ホロコーストの灰から立ち直ったばかりの小さな国ではありません。私たちは、北から東、南の隣接する敵からは、攻撃されません。私たちは、私たちの存在のためには、攻撃されません。

「イスラエルの名が、もはや覚えられないようにしましょう！」

そうではなく、世界で 8 番目に力を持つ国であり、世界で最も革新的な国、我々は、世界の国々を始動させてい

るのです。

我々は、空中から水まで採取します。皆さんがくしゃみをすれば、我々は飲むのです（笑）。それから面白いことに、イスラエル人の 89%が、最新の調査によれば、安全で幸せだと感じているのです。ユダヤ人の 89%が幸せ！聞いたことがありません！

しかし、これは私たちの全員が同意できるでしょう。今は、嵐の前の静けさです。

イスラエルは、その存在のために全滅されようとしていた国から、その所有しているもののために、攻撃を受ける国へと、フルスイングを遂げる必要があったのです。

これが 1948 年なら、私たちが与えられるものと言え、失業とフムス（ヒヨコマメのペースト）とファラフェル（ヒヨコマメのコロッケ）ぐらいでした（笑）。

こんにち、私たちは世界に、ガス、石油、技術、サイバーセキュリティー、それから世界最先端の武器システムを提供できます。

現在、私たちが目にしているもの、皆さん全員が今、目にしているものは、皆さんは、マタイ 24 章が告げている「過ぎ去らない世代」です。

それは、いちじくの木が、ただ息を吹き返しただけでなく、実際に実をつけているのです。実際に、芽が出て来て、葉が茂り始めているのです。再び緑になっているのです。

イスラエルはただの幹ではなく、イスラエルには葉もあって、イスラエルは緑で、私たちの近隣諸国全部が崩壊しています。そして彼らが目を向けると、青々としたいちじくの木を見ます。それが起こるのを目撃している唯一の世代は、皆さん、私たち全員です。

私たちはその時代を生きているのです。私たちは、過ぎ去らない世代です。

なぜなら、私たちはいちじくの木を見ており、その日が近づいているのを目にしています。

私たちはそれを望んだり、そのことを祈ったりはしません。私たちは、見ているのです！

この中に、目のある人はどれくらいいますか？良かった！（笑）

今、生きている人はどれくらいいますか？（笑）

それなら、あなたは見えています。

昨日行われた首相の演説は、あらゆる場所で、敵が企てている策略を全て見ている国の演説です。

あれは弱さではなく、強さです。

しかし、戦争は迫っています。そのことは、私たち全員が知っています。戦争は起こります。最初のゴグとマゴグは、もうそこまで迫っています。ロシアがそこにいます。

それから私は、アツヤトーラに一つ、告げることができます。

「オムツをお前の頭から外して、腰に巻け！

これから、お前は怖い目に遭うのだ！」

ただ、言っておきますが、それはイスラエルが強いからではありません。

仮に、イスラエルがものすごく強く、イスラエルがものすごく素晴らしいなら、そもそもどうして神の介入が必要ですか？違います。私たちは、あらゆる限りの間違いを犯すでしょう。私が信じているのは——神は、言われるでしょう。

「ちょっと、もう止めなさい。わたしが硫黄や何かを降らせるから。」

それからお答えしますと、私たちの敵は全員、我々の司令官を恐れるのではなく、イスラエルの神を恐れます。それから実際には一体何が起こるのか、もし私に聞かれるなら、私が信じているのは、過激派シーア派イスラム



Figure 3 国連総会で演説するネタニヤフ首相

教徒とイラン、過激派スンニ派イスラムとトルコ、それにスーダンとリビアの過激派スンニ派イスラムが混ざり、それに、戦争の略奪品に対する、ロシアの貪欲と飢えが合わされば、その時、過激派イスラムの終結となります。



左からイラン、トルコ、スーダン、リビア、ロシアの国旗

わたしの知っている限り、イスラムは破滅しなければなりません。なぜか？それは、神殿の丘がまだ、何十億人という熱狂的な人々にとっての第三聖地であるうちは、そこに出現して、ユダヤ人に、第三神殿建設を認めることのできる世界的指導者はいませんから。



エルサレム・岩のドーム

何かが起こらなければなりません！それで何億人という数の、イスラム教徒が言うのです。

「これは、上手く行かない！」

「俺たちは、全ての戦争で負けている！」

「全てが上手く行かないのは、この全貌に、神が介入しているからだ！」

その時、第一のゴグとマゴグの灰の中から、誰かさんが出現します。これについて、この一年ずっと話しています。というよりも、この数年間、ずっと話してきました。

その灰の中から、二番目、次の平和が登場します。

これは、「平和の人」で知られる男によってもたらされる平和です。

ヘブル語では、聖書は「彼が“増大する”」と告げています。皆さんの聖書はどれも…

「彼は、平凡なものを増大させ、強化し、目を見張るものへと変える」

He will increase, step-up, turn the ordinary into spectacular

皆さん（英語）の聖書は、「彼は契約を“確証”する」となっているでしょう。

「確証する」という文字を消して、「増大する」と書いてください。

ヘブル語は「יִגְדֹל」

ヘブル語を映していただけますか？ヘブル語の「יִגְדֹל」は「増大する」という意味で、普通のを、壮大なものにするのです。

よく考えてみれば、反キリストは「平和の人」で、「戦争の人」に変わるのは後のことです。

欺きは、彼が来て平和を差し出し、試練の時が始まると共に、彼が「増大」させて、

そして、神殿が再建されると、神殿を再開するために、恐らく彼はまず最初に、ささげ物の儀式を神殿で行うことを認めるでしょう。



しかし彼が正体を現した時、実際には、その時次の戦争が始まります。私は、ユダヤ人たちが彼をメシアとして受け入れると信じています。彼はきっと、エルサレムに招待されるだろうと、私は信じています。彼らは彼に、リボンを切るためのハサミを渡すだろうと、私は信じています。

私が信じているのは、彼がやって来て、彼らが彼に

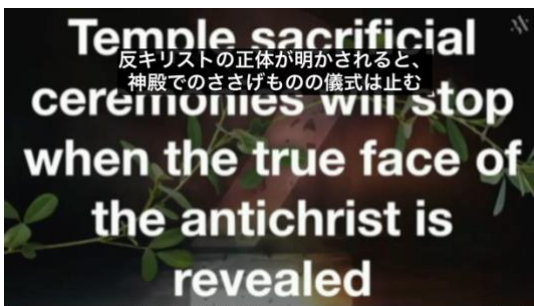
「ご覧ください。私たちにこれを許可してくださり、感謝します。」

と言うと、彼は、彼らに言うでしょう。

「私の家を建ててくれて、ありがとう。」

皆さん、第二の戦争が、そこまで迫っています。これは、ユダヤ人たちが、決して見たくなかったと願う戦争です。もはや、神のご介入とか、目を見張るようなとか、そういうものではありません。ダニエル書 9 章 27 節、第二テサロニケ 2 章 3~4 節で、何か間違いが起こることが分かります。

ヒューストン！問題が発生しました！



反キリストの正体が露わになると、神殿でのささげものの儀式は止みます。

預言者ゼカリヤが、エルサレムとイスラエルの地に迫り来る恐ろしい戦争について描写しています。(ゼカリヤ書 12~14 章 “アルマゲドン”) そしてイスラエルが、イスラエルの地にいる間にエゼキエル戦争を生き残るとすれば、——残念ながらイスラエルは、彼ら

が、イスラエルの外側にいる間に、この有名な“アルマゲドンの戦い”を生き残らなければなりません。なぜなら、我々は逃亡中ですから。

皆さん、反キリストが支配する時、独立民主国家イスラエルは、終わるのです。

我々はクネセット（イスラエル議会）で支配もしませんし、IDF は強力でもありません。

神に感謝なことに、ダニエルはこう告げています。

1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。

(ダニエル書 12:1)

だから、イスラエルは生き残ります。しかし、イスラエルの外側で生き残るのです。

反キリストの脅威が、ユダヤ人をペトラへ追いやると皆が話していますが、聖書は、イザヤで「セラ」と告げていて、もしくは、他の描写からも、私たちに分かっているのはヨルダンです。その、イスラエルと友好関係にあるヨルダンが、門戸を開くのです。

私が、ドイツで預言カンファレンスにいた時、ヨルダン人が途中で立ち上がって、

「ハロー！私の兄弟！」

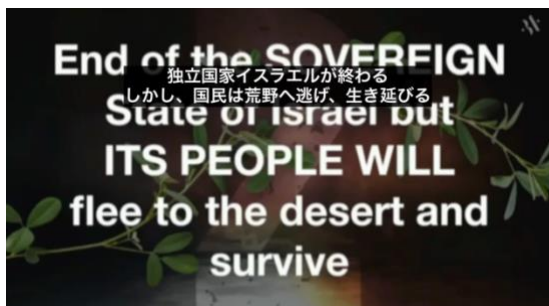
と言うので、そちらを見ると、彼は言いました。



「私はヨルダン人です。私たちはあなたがたのために場所を用意しています。」

彼が、私にそう言ったんです。だから私は彼に言いました。

「そこは、私のためではありません。私は、他のところにいる予定ですから。でも、私の国のためにありがとうございます。」



独立国家イスラエルは終わり、黙示録 12 章が告げている通り、人々は荒野へ逃げ、そして彼らは生き残ります。

それから、平和、戦争、平和、戦争を乗り越えて、次に三番目に突入します。

新たに平和の時代です。

イエスが、戻って来られます。

多くの異邦人たちが、ラツパの祭り と 携拳を混同しています。なぜでしょう？

「“最後のラツパ” と告げている！」

確かに。

聖書の中には、何度もラツパが出て来ます。

しかしイスラエルの例祭は、いつも、イスラエルに (to Israel)、イスラエルのために (for Israel)、イスラエルで (in Israel) 成就します。

最初の四つを調べてみてください。それと、最後の三つも。

イエスが戻って来て、彼の足がオリーブ山に降り立つ時、それが、ラツパの祭りです。

そして、ゼカリヤの言うように、彼らは悔い改め、彼らは泣き、彼らは嘆き悲しみます。それが、彼らの贖罪の日になります。

それから、主が千年の間統治され、それが、仮庵の祭りです。

このように、私たちは、秋の祭りが連続して、見事に成就されるのを見るのです。

曆通りに、2000 年前に成就したのと同じように。

そして私たちは、天で鳴る別のラツパを待っています。

しかし、私たちはその日、その時は知りません。

私たちには、結婚式が待っているのです！私たちはあっちに上がって、出席しないといけません！ジャック牧師が、教会は説教しないといけないと言っていましたが、私たちは、結婚式の準備をしないといけません。私たちは、花嫁ですから！そして、私たちには、天で、その平和があります。しかし私たちは、キリストと一緒に戻って来ます。

この世では、凄まじい戦争が起こっています。

そこへイエス・キリストが馬に乗って来る。

私はいつも言いますが、イエスの再臨の時は、絶対に彼の顔を見てはいけませんよ。彼の背中を見るようにしないでいけません。彼の後ろで、馬に乗っている方が良いですよ。滅ぼすためにやって来る側にいないといけません。

そこで、これ、見てください。第三の平和。

イエスが来られ、今や、全体が千年王国です。

私たちは栄光のからだで、何でも好きなものが食べられる上に、絶対に太りません！（笑）新しい航空会社が

っばいできますよ。

メシア航空、メシア・エアライン、ジーザス・エアウェイズ。

聖書は、ゼカリヤ書 14 章で告げています。大患難を生き残った異邦人は全員、仮庵の祭りを祝うために、毎年、エルサレムにやって来る。

そして、それをしない国はどこも、神の平和をエンジョイしません。

チケットを得るために、彼らは長い列に並びます。

それから、皆さんの多くが空港にいるでしょう。

彼らにあいさつをしながら、飛行機の案内をしています。

そしてあなたは、指を鳴らすとエルサレムにいる（笑）。

彼らが飛んでいる間、皆さんも飛びます（笑）。

すごくないですか？千年王国で救われていない人たちが飛行機の中において、そのすぐ横を、皆さんは飛んでいるなんて（笑）。

そして「食べ物美味しい？」とか聞いてみたり（笑）

そして、キリストは約束された通り、ダビデの王座に着き、彼は、平和の君として統治されます。

皆さんは、これで終わりだと思うでしょう？

もはや戦争はない？

メシアの時代。全てが素敵で、全てが素晴らしい？

皆、そう思うと思いませんか？

さて、皆さんに悪い知らせです。そうはなりません。救われていない世の人々は、その瞬間を待っています。サタンが、底なしの穴から解き放たれる短い期間を。聖書は、そう告げています。

そして聖書には、また別の戦争について、別の描写が描かれています。

三番目。第二のゴグとマゴグ。黙示録 20 章が告げています。

しかもこれは、エゼキエルが巧みに描写している第一のものとは違って、——エゼキエルが語っているのは、たった 5~6 ヶ国だけ。標的になるイスラエルについては、強く、安心安全で、国土を持った国、それから戦争の目的は、戦利品です。

対して、こちらは別の話です。ここでは、サタン自身が戦争を先導します。国ではなく、サタンが人々を世界の四隅から集めます。その数は、海辺の砂の数だ、と聖書は告げています。そして彼らが攻めるのは、イスラエルだけでなく、目的は戦利品ではありません。彼らは聖徒に敵対してきます。愛されている者、そして、愛されている都です。千年王国の終わりに、もう一つ戦争です。私たちが「全てが素晴らしい！」と思うなり、サタンは私たちに思い出させます。

「俺はまだここにいるよ〜っ！」

そして人々は、…彼らの生きている世は、イエス・キリストが地上におられて、主がエルサレムで、ダビデの王座に着座して統治しているのです。

皆さんは、全てが素晴らしいと思うでしょう。でも違います。

なぜかと言えば、主と個人的な関係がない限り、そうはならないのです。

主の隣にいて、主とともに歩いていながら、主を見ない、ということも可能です。

イエスは、あの二人とエマオへ歩いていました。彼らは、主と話をしました。そして彼らは悲しんでいたのです。主はよみがえり、そして、彼らは悲しんでいました。

「人生の三年を無駄にしたよ。」

「お金も注ぎ込んだのに…」

「家にいれば良かった…」とかなんとか。

そこへイエスが

「何のことを話しているのですか？」

「ナザレ人イエスのことですよ！この方は預言者“でした。”

私たちは、望みをかけて“いました。”

でもそれを失って、もう何もありません。」

「今日で三日目になりますが、誰かが墓に行ったとかなんとか、あんなことこんなことを言いだして。もう、やってられない！」

そしてイエスは、彼らの隣を歩きながら、

「そうなの!?…そうか。



Figure 4 ロベルト・ズンド画「エマオの途上」

25 ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。

(ルカ 24:25)

わたしは、あなたの隣に立って、あなたがたと一緒に歩いているのに。しかし、あなたがたが信じなければ！」

主が、マルタに

25 …「わたしは、よみがえりです。いのちです。…」

(ヨハネ 11:25)

と言われた時、どうしてこんなことを言ったのですか？

どうしてこんなことを言ったのですか？

「わたしが道であり、真理であり、いのちです。」

と言うことも出来ました。でも主は

「わたしは、よみがえりです。いのちです。」

と言われました。

つまりこれは、あなたがあなたの罪の中に死んでいるなら、わたしはあなたをよみがえらせる、と言う意味です。それからこれは、あなたがキリストにあって死んだなら、あなたはよみがえるという意味で、——つまり、よみがえった者と、それから生きている者たちが、主と一緒にいるために取り去られる、という意味です。

神の民を殺そうとするサタン最後の試みは、またしても失敗します。(会場拍手)

もしあなたが信者でないなら、そしてもし、あなたが信者ではなくて、自分は大患難を乗り越えられるから大丈夫、と考えているなら、——

核シェルターとかも持ってるし、食べ物も十分にある。ビーフジャーキーも一生分あるよ！とか(笑)。もしくは、こんな風に言うこともできます。

「ああ、この間聞いた話では、千年王国でさえ、別に信者でなくても生きていけるそうだよ。」

私に一つ言えることは、黙示録 20 章に書かれている通り、戦争がやって来ます。そして、それが最後です。それから裁きが始まります。聖書には、黙示録 21 章に、こう書かれています。

3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。

「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、

4 **彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。**

(黙示録 21:3~4)

皆さん、私たちに約束されているのは、最後の平和、四番目は唯一、真実のもの、神が意図された元祖、エデンの園と並ぶものです。

考えてみてください。動物が、一頭としてほふられることがないのです。血が、一滴たりとも流されることがないのです。これを考えるとき、私は本当に感動するのです。全てが真実で、真の平和の希望が持てる場所が、実際に存在します。

どこに？——永遠の世界にです。

ただ、キリストなしでも生きていけると思っている人たちにとって、悪い知らせは、——あなたがたには、主とともに過ごす永遠はありません。

ところで、私はいつも言うのですが、聖書は、皆が永遠のいのちを持つ、と告げています。

ただ、問題は、その場所。

ロケーション、ロケーション、ロケーション…

永遠のいのちとは、主との交わりを意味します。

永遠のいのちとは、主との交わりを意味し、平和とは、主との交わりを意味します。

それから、黙示録にはこうあります。

6 **この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。**

(黙示録 20:6)

つまり、千年王国では、私たちは神の祭司であり、私たちは支配する立場になります。

私たちは、ものすごい立場に立つのですよ！

私たちにとっては、素晴らしいことが待っています。

私たちには、もう死がないのです。信者に対して「死」という言葉は、もう何の効果もありません。

皆さん、理解しておいてください。

パウロがテサロニケの人々を訪れた時、——

彼は、彼らと一緒に座ってパンを裂き、ギリシャ料理の前菜“ザジキ”（書記注：羊乳または山羊乳から作る水切りヨーグルトに、きゅうり、ニンニク、塩、オリーブオイル、胡椒、ディルなどを加えて作るソース）をつけて食べたのです。そして、ものすごい強烈なニンニク臭を放ちながら（笑）、皆でパウロを囲んで座っていたところへ、彼が言ったのです。

「みんな。あなたがたがイエスを信頼するなら、もはや、死はないんだよ！」

そこで彼らは、こんなふうに、

「へえ。興味深いな。それが欲しいね。」

「そうさ！信じるんだ！」

「そうか。そうだな。分かったよ。」

そしてパウロは去っていき、二週間後、誰かが死にます。四週間後、また別の人が死にました。それから彼らは、パウロに手紙を書いて言います。

「もはや死なない、と言いましたよね？」

そして彼らは、あるギリシャ語を言いました。私はもう、その言葉を繰り返しません。そこでパウロは、彼らに書いた書簡の中で、次のように言っています。

「他の、望みのない人々ようになってはいけません！私が『もはや死なない』と言った意味を説明しよう。」
死は、私たちに対して、何の力も持ちません。私たちは信者として、死とはただ眠るだけ。眠りに就くのです。
『キリストにあって眠った人々』は、ちょうど皆さんの小さなお子さんが、リビングルームで寝てしまうと、皆さんは抱き上げてベッドに連れて行くのと同じで、その子はベッドで目を覚まします。私たちも、そうなるのです。



お母さんの腕の中で眠ってしまった赤ちゃん

私たちも、ここで目を閉じるかも知れません。でも、私たちは、あちらで目を開けるのです。ですから、イエスがよみがえった瞬間から、携挙の時の聖徒たちのよみがえり、そして、大患難の終わりの“患難聖徒”たちのよみがえりまでが、「第一の復活」として知られます。そして、千年後の「第二の復活」の時にのみ、残りの人々がよみがえります。

この世で、最初の死があなたを襲うかも知れません。

しかし、心配は要りません。あなたは、よみがえります。

しかし、千年王国の後に、「第二の死」があって、これが、誰もそこから回復することのできない死です。

ですからもし、あなたが「第一の復活」にあずかるなら、あなたが「第二の死」に加わることはありません。

6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、…

(黙示録 20:6)

と、聖書は告げます。

皆さん、私は“四つ”の平和と戦争があると約束しました。

今、作られている平和があって、それから、エゼキエル戦争が確実に見えてきています。

そして、反キリストがもたらす“フェイク平和”があって、恐ろしい戦争がその直後にやって来ます。

その後、この、興味深い平和が千年王国であります。そこでまたもう一度、敵が頭をもたげ、聖徒に対して戦いを挑もうとします。

それから永遠に入り、その時私たちは、私たちの理解をはるかに超える平和に入ります。イエスとともに、永遠のいのちです。

しかし戦争は、信者ではない者たちに対して、戦争があるのです。

しかもこの戦争は、決して絶えることはありません。

これは、恐ろしい戦争です。まず何よりも、イエスから離れます。

聖書は告げています。



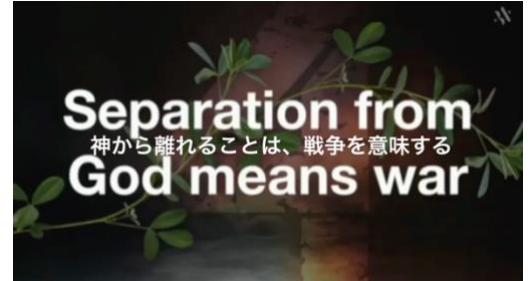
Figure 5 ミケランジェロ画「最後の審判」

- 13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。
- 14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。
- 15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

(黙示録 20:13~15)

神から離れるということは、真の平和から離れることを意味し、私の知る限り、平和がないところには、戦争があります。

私は、これまでの人生の中で、軍事的対立のただ中におかれる状況が何度かありましたが、一つ、人が戦争を形容する時にいつも使う言葉は「地獄」です。もしくは、「地獄のような戦争」。聖書が書いているのは、「火の池」「歯ぎしり」「痛み」「愛がない」「道がない」。これは誰かが、墓の中で眠っている様子ではありません。これは、永遠の人生です。神はなく、おぞましい火の池の中で。歯ぎしりをする、というのは、彼らが生きていることを意味します。死んではいません。死んでいる人が、“ガリガリ”しているのを、一度も見たことがありません。その人は、死んでいますから！



歯ぎしり、痛み。死んだ人間が、どうして痛みを感じますか？私たちは、もう痛みはありません。でも彼らには、痛みがあります。

だから、私は皆さんを駆り立てたいのです。このメッセージは、信者だけのものではないかも知れません。それ以上に、未信者に対するものかも知れません。

これをどこかに保存しておくとも良いかも知れません。もしくは、具体的な日付を書いて郵送するとか。

「携挙のあとに」と書いて投函。

彼らは、今、たとえ後になっても、知るべきです。

今も、永遠にも、イエスから離れては、絶対に平和を得るチャンスはありません。

だから私は、イエスのことばが大好きなのです。ヨハネ 16 章 33 節で、イエスは言われました。

- 33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

(ヨハネ 16:33)

主にあって、皆さんには平安があるのです。

アダムとエバは、主にあって、平安がありました。

それがどうなったでしょう？

罪が入り、分離が入り込み、彼らはもはや、主の中におらず、主とともにいなくなりました。そして、その平和は…平和とは何だか分かりますか？

信頼です。

「あなたを愛しています。」

「あなたと一緒にいたい。」

それが、平和です。

それが、もはや信頼がなく、愛もない。

神がエデンの園を歩かれた時、彼らはどこにいましたか？

彼らは、隠れていました。彼らは、恥を感じていました。

彼らは隠れ、彼らに平和はありませんでした。

神が、人間に与えるために創られた平和は、罪が入り込んだ時、パッと消えてなくなりました。

もしあなたが、今日、その状況にいるなら、罪があなたの人生を支配しているなら、——言っておきますが、私もあなたも知っている通り、あなたに平和はありません。

「ある特定の像の側におかれた、ある特定の十字架の下に平和がある」

とは、イエスは言われませんでした。

「ロザリオを転がせば、平和がある」

とは、イエスは言われませんでした。

「『アッラー・アクバル』と言えば、平和が得られる」とも

「一日に五回とか、一日に三回祈れば、平和が得られる」

とも、イエスは言われませんでした。

「平和に関する国連のエキュメニカル集会に出席すれば、平和が得られる」

とは、イエスは言われませんでした。主が言われたのは、

33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

(ヨハネ 16:33)

私が、イエスを大好きなのは、イエスは絶対に弟子たちを騙さなかったからです。主は、一度たりとも、こんなことは言いませんでした。

「一緒に来なさい！そうすれば、バラ色の人生が待っている！」

いいえ。

33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

(ヨハネ 16:33)

アーメン？——（会場）アーメン。

イエスは、勝利しました。（会場拍手）

良いですか？2000年前、イエスは世に来て、言われました。

「罪は殺すが、わたしはあなたにいのちを与える。」

「平和は失われたが、わたしが平和を与える。」

「あなたがたは、多くの道があるが、わたしが唯一の道を与える。唯一の真理、唯一のいのちを。」

今日、もしあなたが主を受け入れるなら、たとえこの世はどんどん厳しくなるとしても、恐ろしい武器が使用され、人々は殺され、人々は首を斬られますが…これは、私が考えた話ではありませんよ！聖書が、そう告げているのです。

しかし、こんにちでもイエスにあって、あなたは平和を得ることができます。

なぜなら、平和は、イエスの中にありますから。

もしあなたがイエスを信じ、イエスに信頼し、そして、2000年前にすでに十字架の上で達成された勝利を握りしめるなら、あなたには分かります。

最後に、今イスラエルで起こっていることをお伝えして、締めくくりたいと思います。

皆さん、理解しておくべきです。

いちじくの木は、芽吹いています。

しかしいちじくの木は、イスラエルの国家的特権です。

あまりにも多くの信者が「ユダヤ人になりたい！」と考えていますが、(笑)

聖書には、皆さんに「ユダヤ人のねたみを引き起こせ」(書記注：ローマ書 11:11 参照)と告げているのに、皆さんが彼らをねたんでどうしますか？

使徒の働き 15 章では、ペテロまでもが言っています。

「私たちの父祖たちも私たちも負いきれなかったくびきを、異邦人たちに負わせたくない。」

(書記注：使徒 15:10 参照)

皆さん、言っておきます。そうです。皆さんは、ぶどうの木に接ぎ木されました。

ぶどうの木というのは、イスラエルの霊的特権ですから。

そうです。皆さんは、オリーブの木に接ぎ木されました。それは、イスラエルの宗教的特権ですから。アブラハム、イサク、ヤコブ。そうです。今や皆さんもその一部です。

しかし皆さんは、いちじくの木には接ぎ木されていません。

それは、イスラエルの国家的特権ですから。

皆さんは、「いちじくの木を見る」世代に召されているのです。

「いちじくの木になる」のではありません。

いちじくの木を見て、理解するのです。その日が近いことを。

これです。これが、主が戻られることが近いという、究極のしるしです。

ですから皆さん、どうか、ご自分の人生を見てください。

そしてもし、あなたの人生が悪臭を放ち、良くないなら、

——良いですか？

男性の皆さん、私たちは花嫁です！

女性の皆さん、結婚式の日のことを覚えていますか？

二分前に起きて、祭壇に走っていききましたか？

恐ろしい口臭で、ぐちゃぐちゃの頭で？

いいえ！ご自分を飾りましたね？

最低でも、一回は歯を磨いたはずですよ(笑)。花嫁支度をしたはずですよ。

そこで、今日、私たち全員に呼びかけます。

支度をしてください。歯を磨いて、髪を整えるとは、聖い生活をするということです。

御父の仕事に勤しむのです。ジャック牧師が言ったように、私は御父の仕事をしている時に取り去られたい。私たちの全員が、御父の仕事をしている最中に取り去られるべきです。私たちは皆、ビジネスマン、私たちは皆、見張り人です。私たちには全てが見えるのです。

だから私たちは、愛をこめて、人々に警告しなければなりません。

材料を与え、彼らにイエスを伝えるのです。

イエスだけが、唯一の平和、唯一の希望、唯一のいのちです。

だから、私は信じているのです。

平和、戦争、平和、戦争、

そして彼らには、魂の安らぎがありません。

創世記 1 章 2 章の、一番初めに意図された平和が来るまで。

そこでは、もはや神殿は必要なく、もはや太陽も月も必要ありません。主が神殿となり、神の栄光が新しいエルサレムの都を照らします。(会場拍手)

ということで、私たちは聖霊の宮であり、私たちは世の光です。そして私たちは、最後の最後まで、そうあらねばなりません。私たちが主の光と、神殿である主をエンジョイする場所に行くまで。

お父様、心から感謝します。このような時にあって、私たちはこの場所で、ともに集まることが出来ています。一致して、あなたを賛美し、あなたの御言葉を学び、あなたの約束に信頼し、悪魔の策略を知り、彼がこの世に差し出している偽の平和を知り、また、真の平和は、イエスの中にしかないことを知っています。

今日、あなたが、私たちを用いてくださるよう祈ります。この終わりの時、私たちが、あなたの仕事に従事することができますように。城壁の見張り人となりますように。

私たちの発言、思考、行動、全てが、ここにおいても、永遠に、今も、どこにおいても実を結び、御国に実をもたらしますように。

ヴェイシエメレハー	アドナーイ	イエヴァーレフハー
וְיִשְׁמְרֵךְ	יְהוָה	יְבָרְכֵךְ
..(主が)あなたを守られますように	主が	あなたを祝福し

24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

ヴィーフネッカー	エーレーハー	バーナーヴ	アドナーイ	ヤーエール
וְיַחַדְךָ	אֵלֶיךָ	פָּנָיו	יְהוָה	יֵאָר
..(主が)あなたを恵まれますように	あなたに(向けて)	御顔を	主が	照らし

25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

シャーローム	レハー	ヴェヤーセーム	エーレーハー	バーナーヴ	アドナーイ	イッサー
שְׁלוֹמְךָ	לְךָ	וְיִשְׂם	אֵלֶיךָ	פָּנָיו	יְהוָה	יִשָּׂא
平安を	あなたに	(主が)賜るよう	あなたに(向けて)	御顔を	主が	上げて

26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

シャローム。イエスの御名によって。アーメン。

※ 連続して発音する場合は以下

イエヴァーレフハー アドナーイ ヴェイシエメレハー
 ヤーエール アドナーイ バーナーヴ エーレーハー ヴィーフネッカー
 イッサー アドナーイ バーナーヴ エーレーハー ヴェヤーセーム レハー シャーローム

【写真出典一覧】

ルーカス・クラナツハ (父) 画「楽園」1530 年制作 オーストリア・美術史美術館蔵

フーゴー・ファン・デル・グース画「人間の墮落」1470 年制作 オーストリア・美術史美術館蔵

くびき：Wikipedia「くびき」

国連総会で演説するネタニヤフ首相：You Tube American Revolution “PM Benjamin Netanyahu Speech at UN” 2018/9/27

左からイラン、トルコ、スーダン、リビア、ロシアの国旗：各国の国旗の Wikipedia から

エルサレム・岩のドーム：株式会社ユーラシア旅行社「イスラエル旅行・ツアーの魅力～聖地エルサレムを訪ねて～」

ロベルト・ズンド画「エマオの途上」1877 年制作 スイス ザンクト・ガレン美術館蔵

お母さんの腕の中で眠ってしまった赤ちゃん：ままのて「[月齢別]新生児・赤ちゃんの寝かしつけのコツ！おすすめグッズもご紹介」

ミケランジェロ画「最後の審判」1536~1541 年制作 バチカン システィーナ礼拝堂蔵

その他、Keynote (パワーポイント) の画像 11 枚と、歯ぎしり！：動画より